

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 佐久間 系 年齢 17 歳 職業・学校名 富岡高校

3月11日、私回家に帰り友達と遊ぶ約束  
 をして外に飛出た。すると長い時間足元  
 が揺れ始めだんだん揺れが大きくなり、立っ  
 ていられなくなりフェンスにつかまりしゃが  
 み込んでいた。揺れが治まりるごとに家の中  
 に戻った。家の中でテレビが倒れ食器も割れ  
 ととても悲惨だった。この日から生活が急に変  
 わり、水と出ない、コンビニに行き、水を食  
 物と飲み物を何もなく、1週間ほど家にある  
 もので苦しい生活を過ごした。

私は東日本大震災を経験してたくさん  
 のことを学び、感じることも出来た。それは、今  
 まだ当たり前前の生活を楽しく過ごして来たが  
 1日の自然災害でこんなに苦しい生活をして  
 今、当たり前前の生活を過ごせていることが、  
 とても幸せだと感じた。私は今、アレハブ校  
 舎で学校生活を送っている。楽しい学校行事  
 は多いけれど、今、生きていられるというこ  
 とに感謝し、今日を生き抜いた方の分を精  
 一杯生き、感謝の気持ちをお返ししたいと思います。

## 「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

## 匿名希望

東日本大震災を体験したの小学校6年生  
 でした。その日は学校、校庭をみんなどす  
 ぽーを歩いていて地震が起きた。地面がゆれて  
 木が倒れて、学校の体育館に避難したのを覚  
 えてります。テレビをつけたら、津波の身で  
 りの映像を見て、驚きました。そして原発事  
 故で自宅待機が命令されて、外に一步も出れ  
 ない。知り合の無事かどうか心配に  
 なり、電話をかけたけれどつながりなくて、  
 不安だ、たけれど、なんとか無事と言う報告  
 を受けて安心した。  
 今は、高校2年生になり、おと学校、校庭  
 の一部にプレハブを建てて暮らしてりる。今  
 は毎日楽しく学校生活を送ってらるけれど  
 何か物足り無さああって、自分達の学校で学  
 校生活を送りたか、たと言う思いがある。早  
 く除線して、地元に戻りたい。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

匿名希望

あの日地震が起。この時私は私は小学6年  
 生でした。この時私は、謝恩会の準備で皆と  
 音楽室にいきました。友達と一緒に教室に戻った  
 り、放送が入りました。地震がまたかかると  
 何やらこの放送が止つた。放送が終わり、代りに  
 すごく学校が揺れまわした。その時の地震は、  
 今でも忘れません。帰、たまたま、乗の方は津  
 波で街外海にのりこまれていきました。私の所  
 は海が近くにいるので大丈夫でしたが、同じ  
 福島県民の人たちがこんなことには、こころ  
 と思ふと、すごく悔やしい気持ちでい、ぱり  
 でした。

あれから5年経、て、私は地元を離れて富  
 岡高校に通、ています。本校舎に通えないうちに  
 とはすごく悔しいです。でも、地域の方々に  
 お世話にな。たり、施設も借してもらうなど  
 と色々話を聞いてもら、ています。私は、富岡  
 高校に来たすごく幸せを感じました。みんな  
 が助け合、た助けたり友だち、こころをと思  
 います。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

匿名希望

2011年3月11日本校の三室卒業式  
 の準備をして日暮時後後東日本大震災を  
 受け取る震災は私達にもありました。水も  
 電気もなくなり食料も急に買集め満ちめ  
 行かない生活が始まり楽しめた。水を使った  
 洗面もトイレも行けず夜ははやりいかに  
 使った世帯の三室で家族皆を過ごしました。  
 電気が復旧した後、テレビを付けるは何度も  
 多くの犠牲者の悲しい報道が流れてきました  
 道本道元の生活に戻ることができぬかの  
 毎日不安でした。それ以来今年以来がすぎ  
 た今も自分の希望していた高校に進学できず  
 結果好きな事全て取り組んでいませぬ。そ  
 の他は素直に長所仲間にも恵まれ充実した生活  
 を送っています。本校舎が過ぎた世帯の事は寂  
 しく感じるものだが前未だ前の事かできる今  
 は、私は感謝しています。

復興に力をつけて私達。ぜひ長くごまご様な生  
 活望望たては申せせん。ただ皆皆が心か笑  
 える何れを少しも増やしてほしいです。

## 「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 設楽 千夏 年齢 17歳 職業・学校名 富岡高校

小	学	校	の	卒	業	式	を	約	2	週	間	後	に	控	え	た	3	月		
11	日	に	あ	の	東	日	本	大	震	災	が	お	き	ま	し	た	。	そ	の	
時	は	学	校	に	い	て	、	皆	が	普	通	の	地	震	だ	と	思	い	て	
い	ま	し	た	。	ど	も	地	震	は	お	さ	ま	ら	ず	、	先	生	達	が	
外	に	避	難	す	る	よ	う	に	指	示	を	し	ま	し	た	。	体	育	館	
の	窓	が	う	た	は	割	れ	、	近	く	の	家	の	屋	根	が	崩	れ	る	
の	を	見	て	普	通	だ	と	は	な	い	と	分	か	り	ま	し	た	。	そ	の
日	は	あ	ぐ	に	家	族	が	集	ま	る	こ	と	は	な	く	次	の	月	か	
ら	父	の	職	場	が	避	難	所	に	な	り	ま	し	た	。	小	さ	い	子	
か	ら	高	齢	者	の	方	ま	で	毎	日	同	じ	食	事	だ	、	い	つ	ま	
た	あ	の	地	震	が	く	る	の	か	不	安	だ	い	、	ほ	い	だ	と	い	
と	思	い	ま	す	。															
私	は	原	祭	の	近	く	の	高	校	に	通	い	た	い	と	思	い	て		
い	て	、	地	震	が	お	き	て	か	ら	は	そ	の	高	校	に	入	学	す	
る	か	と	も	迷	い	ま	し	た	。	普	通	の	高	校	と	は	違	く		
本	校	舎	で	勉	強	や	ス	ポ	ー	ツ	は	で	き	な	い	け	ど	、	い	
つ	か	再	開	し	て	戻	れ	る	よ	う	な	環	境	に	な	り	、	て	ほ	し
い	だ	す	。	そ	し	て	今	も	避	難	生	活	を	お	く	、	て	い	る	
人	達	が	安	心	し	て	自	分	の	家	に	戻	れ	る	よ	う	に	、	原	
祭	で	働	い	て	る	方	も	頑	張	、	て	ほ	し	い	だ	す	。			



「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 菅野 圭吾

年齢 17 歳

職業・学校名

富岡高校

3月11日2時46分18秒に東日本大震災は起  
 こってしまいました。誰もが予想もしなかったこ  
 とが今こうやって起こってしまったのだ。こ  
 の東日本大震災が発生した時、私は小学校の  
 6年教室でいつも通り授業を受けていた。急  
 に起きた震災に学校中にいたみんなが戸惑い  
 「怖い怖いよ」とパニックを起こしている  
 人が多く見られた。私も当時は非常にこれか  
 らのことが不安で仕方なかった。震災の影響  
 で食べ物も十分に買えない、車のかゆりも  
 思うように入らない、電気も水道も十分に使  
 えないと非日常的なことが現実だった。しか  
 し全国の人や他国の人たちさんの人が支援し  
 てくれてこの状況を乗り越えたといっても過  
 言ではない。「ありがとう」の5文字を全て  
 の人に伝えたい。感謝の気持ちだけで良いか  
 ら伝えたい。震災を乗り越えた今、高校生に  
 残り大好きなサッカーを何不自由なくやらせ  
 てもらっていることに感謝して、これからの  
 人生で後悔しないように精いっぱい生きたい。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 高木 日向 年齢 17 歳 職業・学校名 富岡高校

僕は東日本大震災が起きた時、小学校の校庭に整礼していました。急に地面が揺れ始め、小学校の校庭が波のようにグネグネと動き出し、とても怖かったです。このことを覚えています。家に帰る途中にある川は津波で増水し、いまにもあふれそうな勢いでした。家に着くと、窓が地震により開いていてとてもびっくりしました。この時は原発事故のことをまだ知らずに地震をたえていました。

そして2日後、津波の影響により、<sup>その</sup> <sup>原</sup> 原発が大変なことになり、<sup>その</sup> <sup>福</sup> 福島から逃げて出しました。いそいそと起きると、もう家に帰れないんじゃないかと不安な気持ちになりました。しばらくしてから家に帰ることでかきまじりようになり、中学校も始まりました。

自分にとって色々あることが起きて不安な気持ちになりましたが、生きていたことはすくなく良かったと思います。残りの人生では、震災のことを忘れずに命を大切にしていきたいです。



## 「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

## 匿名希望

東日本大震災が起きた時、私は小学校の教  
 室でいつも通り野菜を売りに来ていた。地震  
 が起きたその二、三日前にも小さな地震があっ  
 たのでその日も前の日の様にすぐ終わると思っ  
 ていたが揺れがどんどん大きくなって、この  
 も覚えていきます。校庭に避難した後も余震が  
 続き3月なのに雪が降り、海先の生活がとて  
 も不安になりました。家に帰り被害の大き  
 なるのをテレビで見ると私も驚かされました。  
 幸い私の住んでる所は水道や電気が止まる  
 ことがなかったと思っています。

私は、富岡高校に進学をした。富岡高  
 校は原発事故の影響で福島県高校に仮校舎を  
 置く学校生活を送っています。しかし、私達  
 は、元々とくたえ、た地域の方々の助けが  
 不自由のない生活を送れている。その感謝  
 の気持ちと共に地域の方々に敬意を捧げ  
 たいと思います。そして、富岡町で被災した  
 地域が一刻でも早く元の様に生活を送れる  
 ように願っています。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 根本 拓実 年齢 17 歳 職業・学校名 富岡高校

私は、小学校の教室で帰る準備をしていた時、東日本大震災が発生した。机の下に隠れていた時、棚からテレビが落ちたり、窓が外れそうになっていた。地震が収まり家に帰るために外に出た時、校庭が地割れしていたり、突然雪が降ってきたりと、今まで感じたことがない恐怖心があった。家に帰っても、屋根の瓦が落ちていたり、停電や断水していた。あまり、日常では感じない事が起きていた。2日間程この生活が続き、不安な気持ちだった。

今、私はサテライト校が設置されている富岡高校に通っている。サテライト校なので生徒全員が集まる事が少ない。1年に2回「富岡の集い」という行事で全校生が集い、班行動など交流したりする。普通の高校ではありえないことだ。震災があつてこういう状況にいる。早く復興してもらいたいし、一度でいいから、富岡高校本校舎で授業を受けてみたいと思っている。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 野辺 優夏 年齢 17歳 職業・学校名 富岡高校

東	日	本	大	震	災	の	時	、	私	は	小	学	校	6	年	生	で	し		
た	。	卒	業	式	を	控	え	て	い	た	た	め	、	体	育	館	で	卒	業	
証	書	授	予	の	練	習	を	し	て	い	ま	し	た	。	避	難	の	放	送	
が	な	る	前	に	、	み	ん	な	ど	一	斉	に	中	庭	に	飛	び	出	し	
た	の	を	、	今	ど	も	覚	え	て	い	ま	す	。	家	に	帰	っ	た	ら	
コ	ツ	パ	や	皿	が	食	器	棚	か	ら	落	ち	て	、	割	れ	て	い	た	
た	め	、	片	付	け	を	あ	る	の	に	、	そ	の	も	長	い	時	間	家	
の	中	に	入	り	ま	せ	ん	で	し	た	。	ま	た	、	ラ	イ	フ	ラ	イ	
ン	が	全	て	止	ま	っ	て	し	ま	っ	て	、	大	変	な	思	い	を	し	
ま	し	た	。	そ	の	時	、	日	常	生	活	を	普	通	に	送	れ	る	こ	
と	に	感	動	し	ま	し	た	。												
現	在	、	部	活	動	を	一	生	懸	命	に	取	り	込	め	て	い	る		
の	は	、	両	親	や	周	り	の	人	々	に	支	え	を	れ	て	い	る	か	
ら	が	あ	る	。	な	の	で	、	こ	れ	か	ら	は	、	部	活	動	が	成	績
を	残	こ	し	て	思	返	し	し	た	い	と	思	っ	て	い	ま	す	。	ま	
た	、	東	日	本	大	震	災	で	使	え	な	く	な	っ	て	し	ま	っ	た	
練	習	場	も	た	く	さ	ん	あ	り	ま	す	。	放	射	能	に	は	、	勝	
て	ま	せ	ん	が	、	他	の	事	に	は	復	興	で	勝	っ	て	い	ま	し	た
ら	と	思	い	ま	す	。														

## 「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

## 匿名希望

東日本大震災が起きた時、私はまだ小学6  
 年生でした。学校もおわり、友達と一緒に歩  
 いて下校していました。歩いていたら、た  
 のび地震が来たのがわかりませんでした。  
 家に帰ると、家の人以外はみんな出てしま  
 した。みんなあわてていて、何が起きてい  
 るのか全然わからず、家の人にきいてみたど  
 きに、おと地震が、たことわかりました。  
 テレビを見たら浜の人や津波から逃げている  
 映像が映っていました。見ていると、避難し  
 ている人が、避難所に避難している人がた  
 くさくさしてびっくりしました。会津の方にはほと  
 んどいなくなっていて、良かたですが、同じ福  
 島の人が大変な目にあっているのを見て、心  
 が痛くなりました。何をなさることがいいと思  
 ったか、自分の力では何もできないことはあ  
 りませんでした。ただ、見守ることしかでき  
 ない自分かとても嫌になりました。これから  
 も復興に向けてできることをしていきたく  
 います。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 蛇石 壮輝 年齢 17 歳 職業・学校名 富岡高等学校

2011年3月11日午後14:45分頃  
 私は、小学6年生の残り少ない帰りの短学活  
 をしていた。学活が終わりそうな時に、地震  
 が起きて、寸分収まると思い椅子に座あつて  
 いた。揺れが来、たく止まず先生が、机の下  
 に入れ、と言、た時緊張感外はしり人生で初  
 めての地震を体感して1分弱くさいくさい揺  
 れが止んでそこから音楽室の所の非常階段か  
 が降りて校庭で素早く点呼をとり校庭で現状  
 把握が出来るまで待っていたが急に吹雪にな  
 り昇降口の中に入、て待、ていた時も何回か  
 揺れを感じました。先ほどまでも恐怖心を感情  
 に出していたのが見えました。そして落さつ  
 いてきたところで家に帰る、となり友達のお  
 母さんが迎えに来て家にまで送、てもらい家の中  
 に入、た。リジニングは、物がおぶれこいて部屋  
 のドアは、開かなくしてと観たが、宮城県  
 の海岸が映、ていて、津波が町をのり込んで  
 いく瞬間を映像で見たこと今何処まで  
 いるのか、たくわからなくでど、つりしました。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 早南斗 年齢 17 歳 職業・学校名 富岡高校

小学6年生の卒業式の前日、私はいつもの  
 のように帰りのバスを待つていた。その時の  
 自分は、まだ地震だかと思っていた。そして  
 家に帰るとお母さんと下りた地震の事、何処  
 へ逃げたのか、知りませんでした。その  
 時兄は富岡高校へ居て、放射能の避難区域に  
 入った兄は二日後に母と家に帰ると言  
 った。その時話を聞いてようやく理解した。ま  
 た母も大変な事だ起こしたんだと。多くの人が  
 亡くなったり行方不明と聞くと悲しい気持ち  
 になった。元々暮らしていた所は人の多い  
 ため自分や何処かへ逃げたのか、考えたり、夢  
 を見ていたりした。そして今自分は富  
 岡高校の生徒の一人です。早く復興したいと  
 思っています。元々を返したいです。富岡町民は自  
 分の町の事を応援してくれています。その応援  
 があるからこそ、今には不自由な環境  
 でも子供達に感謝し、今でも王子の世を分か  
 ち合ったり富岡町民や震災にあつた人たちに勇  
 気を返したい。心ばかりですが、

氏名 緑川 龍輝

年齢 17 歳

職業・学校名 富岡高校

私が東日本大震災を体験したとき、当時の私は小学6年生で教室にて帰りの会を行っていました。いつもの様に帰りのあいさつをすませて帰ろうとしていた時に突然すごい揺れが起き、机の下に隠れながら揺れが弱まるのを待っていました。その後体育館に集まり、親の迎えを待ち帰宅しました。家に帰ると、家の目の前には電柱が倒れていたりと、道路がゆさゆさくちやになつていたりなど、外の様子を見るたびに先程の地震の酷さを物語っていました。家の中もゆさゆさくちやになつていて、水道が機能しなくなつたりしてとても大変な思いをしました。

私はこの震災を経て、思い返すとたゞ自分の出来事を乗り越えてしまつた状況を乗り越えてこれたことは今思うと良い経験なのかなと思います。この震災が及ぼした被害はとてつもないもので、そのため復興や復興の力への手助けになれるようなことが自分にあれば、全力を取り組んでいきたいと思っています。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

匿名希望

2011年3月11日私はいつも通り学校  
 から帰る途中だ。た。急に回りのL2がなご  
 が落ち小学6年の自分には何かおきかえが全く  
 分からぬが、たかたかその時思っ たのは、こ  
 の先自分はどうなるのか卒業式を向かえらね  
 るか心配になりました。けど災いのこゝには、  
 自分の身の回りは特に大きな影響はなくそれ  
 は大人の人から、かりと対応してくれながら  
 だと思えます。そして今自分は、富岡高校と  
 いう高校で生活を送っている。富岡は自分と  
 違っていてごく影響を受けて福島北、川も玉明  
 星大、猪苗代、三島長陵の4つのサテライト  
 に分かれてはいるがみんな自分の夢に向かい  
 頑張っている。私自身もサッカーをやっ  
 て、福島北サテライトでやっています。先輩  
 のおかげで自分たちは、いい環境ででき  
 るのでこの震災を通して感じたのは、常に感  
 謝の気持ちを持ち続けることと当たり前  
 を当たり前と思おなうで行動することです  
 未来を将来につなげる努力をしていきたい。

(20文字×20行)



「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

匿名希望

私	は	、	東	日	本	大	震	災	が	起	き	た	時	小	学	校	も	年		
生	で	レ	た	。	下	校	の	時	間	友	達	と	校	門	を	出	よ	う	と	
し	た	<del>瞬</del>	<del>間</del>	、	先	生	が	井	ん	な	を	呼	び	と	め	ま	し	た	。	
		と	き																	
私	た	ち	は	、	何	が	起	き	て	い	る	の	か	れ	か	ら	ず	校	庭	
の	真	ん	中	に	集	め	ら	れ	ま	し	た	。	そ	の	時	、	も	の	可	
ご	い	地	震	が	起	き	周	り	は	悲	鳴	で	い	、	ほ	い	で	し	た	。
地	震	が	お	さ	ま	<del>り</del>	<del>に</del>	帰	ま	し	集	団	下	校	と	な	り	先	生	
						り		り	は											
も	一	緒	に	き	て	く	れ	ま	し	た	。	家	に	帰	る	と	、	飾	、	
と	あ	、	た	物	が	落	ち	て	た	り	、	本	棚	か	ら	本	が	落	ち	
て	た	り	し	ま	し	た	。	私	は	、	こ	の	地	震	で	多	く	の	人	
達	が	津	波	な	ど	で	亡	く	な	り	、	地	震	が	お	さ	ま	っ	て	
も	い	つ	ど	こ	で	く	る	の	か	れ	か	ら	な	い	の	で	、	と	て	
も	怖	い	も	の	だ	と	感	じ	ま	し	た	。								
復	興	に	向	け	て	、	た	く	さ	ん	の	人	が	ボ	ラ	ン	テ	ィ		
了	な	ど	し	て	い	ま	す	、	私	も	、	被	災	地	に	と	っ	て	本	
当	に	必	要	な	支	援	と	は	何	な	の	か	考	え	な	が	ら	、	多	
く	の	ボ	ラ	ン	テ	ィ	了	活	動	に	参	加	し	た	い	な	と	思	っ	
て	い	ま	す	。	こ	れ	か	ら	も	、	も	っ	と	福	島	が	よ	く	な	
る	た	め	に	井	ん	な	で	協	力	レ	合	え	た	ら	い	い	な	と	思	
っ	て	い	ま	す	。															

(20文字 × 20行)

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

匿名希望

私は、東日本大震災があった時は卒業式が  
 終わった後で家にいた。地震来て道路に出た  
 う道がぐわぐわ曲がっており、地球の終わり  
 かと思った。その後、話を聞いたら天候も変  
 わっていたらしい。地震の後には家や家談は無  
 事だったか、カリリンスタットのカリリンは  
 足りなくなっていたり、工場のニヤスパー  
 の食料もなくなっていた。知り合いがいわま  
 の方に住んでおり、手伝いに行っていた津波の  
 被害を見て衝撃を受けた。

二人から、福島復興への希望は福島第一  
 原発がなくなり、福島国民全員が安全に暮ら  
 せるように存じていてほしいと思う。二〇  
 二〇年には東京オリピックが開催される  
 までのオリピックにはお金を使うのではなきて  
 ます。福島復興のことを考えてほしいと思う。

「東日本大震災の体験談と復興への思い」応募用紙

## 匿名希望

私が東日本大震災を経験したのは、中学校  
 1年生の時だ。その日は、卒業式だったので  
 帰るのが早かった。私は地元のスパーマーケット  
 でサッカードのグッズを作っていた。作り終  
 わりひと休みしている時だった。地震が起  
 きた。最初は普通の地震だと思っていたが、し  
 だいに強くなっていき、迎くた。タイマー  
 が折れそうなくらいになった。怖かった。お  
 仕事から帰る途中で心配に足りたので家に電話  
 をし家族の安全を確認した。その時の天候は  
 大かしく、晴れていたのに急に吹雪が降り始め  
 ました。その日は余震が続いたので家族で  
 リビングで寝た。食糧を買った。腹いっぱい  
 飯を食べることもできなかった。今の生活は  
 震災から時間が立ち普通の生活に戻り、でき  
 たら始めようと思った。とれた人がある。普通  
 の生活ができることかたまりだと思っ  
 てもいい。ういことかたまり。毎日  
 を頑張る。生きよう。

◇  
 とする。

(20文字×20行)

氏名 江川大悟

年齢 18 歳

職業・学校名 富国高校

「あ、地震だ」と思った。た当時中学1年生  
の私は、3月11日のあの時、3年生の卒業式  
を終えて、いわきのジョウロウイングセンターの  
エブリアに友達と一緒にいた。「あ、地震だ  
」と、思った私は、この地震が今まで体験し  
た地震とはないことを一瞬で悟った。徐々に  
揺れが大きくなり立っていられない程強い状  
態が続き、中には音が危険だと感じた私は  
店の外に飛び出した。ここまではほんの数分  
の出来事だ。余震が続く中、これまでに感  
じた事のない不安が私を襲い、帰宅した。元  
来から約2か月程不自由な生活が続いた。今  
まで送っていた当たり前の生活がどんどんと  
崩れていくのをこの2か月とて考えさせられ  
た。ここには書ききれない程多くのことを感  
じた。津波や原発事故での被害が多きかつた。  
地域に依るが、私なんか比べものになら  
ないくらい犠牲があった。震災から5年が  
経とうとしているが、どの地域も、被害に立  
ち向かっていくさと復興に全てを注いでいる。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 加藤 正和 年齢 18 歳 職業・学校名 富岡高校

東	日	本	大	震	災	が	起	こ	た	と	き	、	私	は	祖	母	と	家	
に	い	た	。	携	帯	電	話	か	ら	、	今	手	で	に	開	い	た	こ	
と	が	ほ	い	音	が	流	れ	た	。	そ	の	と	き	、	大	変	は	接	れ
に	襲	わ	れ	外	に	被	難	し	た	。	私	は	、	そ	の	と	き	の	光
景	が	今	ど	も	忘	れ	ら	れ	な	い	。	隣	の	家	の	瓦	は	全	く
落	ち	、	グ	ロ	ッ	ク	壊	れ	信	号	機	が	倒	れ	て	い	た		
私	は	、	ど	こ	か	違	う	世	界	に	い	ても	タ	イ	ム	ス	リ	ッ	ク
し	た	ま	う	な	感	覚	に	落	ち	い	った	。	当	り	前	だ	の		
た	日	常	が	失	わ	れ	、	今	手	で	の	生	活	が	ど	れ	だ	け	奉
せ	ん	と	な	り	、	こ	の	か	を	身	に	し	め	て	感	じ	た		
私	は	現	在	、	富	岡	高	校	に	通	っ	て	い	る	。	国	際	・	
ス	ポ	ー	ツ	科	と	い	う	学	科	イ	ス	ポ	ー	ツ	に	か	こ	め	ら
れ	て	い	る	た	め	、	1	月	の	サ	リ	キ	と	う	り	が	こ	の	物
質	が	あ	る	。	ス	ポ	ー	ツ	は	、	何	も	自	由	な	く	、	都	立
が	い	ま	る	が	被	災	し	て	い	た	ため	、	校	舎	が	た	た	へ	
た	た	た	り	、	学	校	行	事	が	ほ	と	ん	と	な	り	、	そ	の	
に	お	お	か	せ	て	の	活	動	範	囲	は	せ	ま	り	、				
私	が	お	こ	の	復	興	へ	の	専	門	目	、	何	人	か	も	い	は	な
い	に	再	び	任	り	の	ち	を	こ	に	お	こ	の	こ	の	こ	の	こ	の
一	早	く	復	興	が	進	む	こ	と	を	願	う	。						

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 魚沼 悠汰 年齢 18 歳 職業・学校名 富岡高校

私は、2011年3月11日午後2時46分  
 東日本大震災を体験しました。その時私は、  
 中学1年生で卒業式を終え自宅に戻り部屋で  
 テレビを見ていました。私は今までにない揺  
 れを感じ外に出なければと思い二階から急い  
 で降り外に出ました。外には兄がいました。  
 家族が全員そろったのはそれから30分後で  
 した。私はその後非難所をまわり5日目に母  
 の実家のある岩手県花巻市に非難をし中学2  
 年生を新しい学校で過ごししました。

私は、震災を憎みません。震災は私に逆境  
 をあたえてくれました。今の時代すべてが便  
 利になり子供の心のまま大人になる人が増え  
 社会に出て行っても何もできない人が多いと  
 思います。私は、この体験を生かし将来自分  
 が今よりも、と成長できるようにこの逆境を  
 チャンスに変えていきたいです。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

## 匿名希望

私は、2011年3月11日に東日本大震災を体験しました。当時私は中学1年生で、卒業式の片付けをして、部活動の準備をしていたところでした。生まれて初めて経験するものすごい揺れに、私はどうしていいかわかりませんでした。家に帰ると、家の中はめちゃくちゃになっていました。これからどうするのかかわからないまま、約1ヶ月家から出られませんでしたが、原発の影響で学校再開が遅れ、外での活動時間も制限されました。

高校では、県内外4つのサテライトに分かれてプレハブの仮設校舎に通っています。本来なら同じ校舎で学ぶはずの仲間たちが、ばらばらで生活しているのほとても残念です。富岡高校は休校になってしまいうけど、いつか必ず再開してほしいです。そして二度とこのような事故が起きないでほしいと思います。

匿名希望

私が東日本大震災を体験したの中学校二年生の頃でした。私は午前中、卒業式をして午後からサッカー部で小学生が大会で使うグラウンド作りをしていました。最初体小さな地震で気にしながら、白ですが、段々揺れが激しく、つりかグラウンドの照明が倒れようとするので揺れが強くなりました。地震が起こる前は天気は晴れていたのですが、それが一変して風が強くなり雪も降ってまじまじ吹雪になりました。私はすごく不安になり家に帰ると物が散らかり、水も止まり、コンビニも何も無い状況になりました。当たり前の生活がとても幸せに感じました。しかしまだ復興していない地域もあります。家も津波で無くして仮設住宅で住まわしている人達もいます。まだまだ復興が着いていないので復興に力を尽せたいです。



「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

## 匿名希望

私は、東日本大震災のとき、中学校1年でした。そしてその日は卒業式で早く学校も終わり、家でゲームをしていました。最初は揺れがそこまでではなかったのだから大丈夫かと思っていたら、その後、物凄い揺れが来て驚きすぐに逃げました。物凄い揺れではあったけど家には全然被害がなかったのだから、~~悔~~<sup>悔</sup>にもないのかと思っていました。しかしその後、近所を見に行くと、壊れている家があったり、道路もぐちゃぐちゃになっていてとてもびっくりしました。そして、水や電気が使えなくなったり、とても不便な生活でした。今思うと当たり前に住んでいる環境はとてもすごいことな人だと思えます。

まだ、仮設住宅に住んでいて、地元へ帰れない人もいるので、少しでも早く帰れるように復興にもっと力を注いで欲しいし、私も力を注げるように頑張りたいと思います。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 佐々間 哉瑠 年齢 18 歳 職業・学校名 富岡高校

私は中学1年生の時東日本大震災を経験し  
 た。その日に卒業式の日で学校が早く終わっ  
 た。その日は地元のスパーツ広場で翌日に行  
 われるサッカーの試合の会場準備をしていた。  
 すると、大きな揺れに恐れられ立つこともでき  
 なかった。急に吹雪になり、その時にこれは  
 ただの地震じゃないなと思った。当然会場準  
 備も中止になり家に帰ることになった。私は  
 家にいるおばあちゃんや弟が心配で急いで帰  
 ってきた。家族は無事だった。家の食器棚  
 や私の部屋がめっちゃくちゃになった。初  
 めてこんなに恐ろしい地震を経験した日だった。  
 私は現在富岡高校に在籍している。しかし  
 震災の影響で4つのサテライト生者を余儀なく  
 している。その結果学校行事も少なく、本校  
 舎でも学んでいる。だが私は自分の意志で  
 富岡高校を選んだ。それはサッカー強豪校で  
 あるからだ。全国大会にも出場しておりとて  
 もあこがれた。しかし、来年度もって休校と  
 なる。私の願いは母校が復活してくれること。

(20文字×20行)

## 「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 鈴木美紀 年齢 17 歳 職業・学校名 富岡高校

4	年	前	に	お	き	た	東	日	本	大	震	災	の	時	、	私	は	中	
学	1	年	生	が	し	た	。	こ	の	時	お	き	た	地	震	は	私	が	
に	な	い	恐	怖	を	感	じ	ま	し	た	。	普	通	に	立	っ	て	い	
ら	な	い	程	の	揺	れ	が	し	た	。	震	災	後	は	コ	ン	ビ	ニ	
品	揃	え	が	悪	く	、	ガ	リ	リ	ン	ス	タ	ン	ド	に	行	列	が	
ど	き	付	り	し	ま	し	た	。	そ	れ	か	ら	日	が	経	ち	、	私	は
受	験	生	に	な	り	ま	し	た	。	サ	ッ	ホ	ー	を	続	け	る	か	迷
い	ま	し	た	が	、	松	本	先	生	が	富	岡	高	校	の	サ	ッ	ホ	ー
の	一	部	に	誘	っ	て	く	私	は	色	々	悩	み	富	岡	高	校	に	入
学	する	こと	を	決	め	ま	し	た	。	富	岡	高	校	は	サ	テ	ラ	イ	ト
校	を	建	て	そ	の	に	3	年	間	通	り	ま	し	た	。	富	岡	高	校
が	ほ	た	く	ま	ん	の	こ	と	を	学	ぶ	こ	と	が	ど	き	ま	し	た
。																			
東	日	本	大	震	災	か	ら	5	年	が	経	ち	う	と	し	た	。	今	も
家	に	帰	れ	な	い	が	い	ま	す	。	今	後	は	全	て	が	震	災	前
と	同	じ	よ	う	に	な	っ	て	ほ	し	い	と	思	っ	て	い	ま	す	。
ま	た	、	今	普	通	に	生	活	が	ど	き	て	い	る	こ	と	、	好	き
な	こ	と	が	夢	中	で	ど	き	る	こ	と	に	感	謝	を	し	て	生	き
て	い	っ	て	存	じ	い	と	思	い	ま	す	。							

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 千葉 謙也 年齢 18 歳 職業・学校名 富田高校

私	は	東	日	本	大	震	災	の	時	、	中	学	1	年	生	で	し	た			
そ	し	と	そ	の	日	は	、	先	輩	の	卒	業	式	で	し	た	。	な	の		
で	学	校	も	早	く	経	わ	っ	た	の	で	友	達	の	家	で	遊	ん	で		
い	ま	し	た	。	友	達	の	家	で	遊	ん	で	い	た	時	に	地	震	が		
お	き	と	最	初	は	大	丈	夫	だ	と	思	っ	た	け	ど	地	震	が			
長	く	と	揺	れ	も	次	第	に	大	き	く	な	っ	て	ど	う	し	た	ら		
い	い	の	が	わ	か	ら	な	く	と	外	に	逃	た	。	こ	の	時	、	家		
の	屋	根	に	つ	い	い	子	レ	ン	ガ	が	落	ち	て	き	と	危	険			
い	と	思	い	家	に	入	り	ま	し	た	。	こ	こ	で	電	話	が	つ	ま		
が	あ	ら	な	く	と	心	配	し	て	た	ら	親	が	迎	に	来	て	く	ん	で	
家	に	帰	っ	た	ら	家	に	あ	る	本	棚	の	テ	レ	ビ	が	た	お	れ		
て	い	た	。	こ	の	事	が	あ	ん	で	よ	か	っ	た	。						
学	校	が	ほ	ろ	と	ラ	イ	ト	校	で	仮	設	校	舎	な	の	で	本	校		
で	学	ぶ	こ	と	が	あ	ら	な	か	っ	た	。	普	通	の	高	校	が	た		
い	に	学	校	行	事	を	全	く	や	っ	て	な	い	。	4	つ	の	サ	ラ		
ラ	イ	ト	な	の	で	他	の	人	と	の	交	流	が	あ	ら	な	い	の	で	同	
学	年	の	人	も	あ	ら	な	い	人	が	い	る									
復	興	に	向	け	て	、	い	い	と	地	震	が	お	こ	る	が	わ	か	ら		
な	い	の	で	二	度	と	原	発	を	つ	く	ら	な	い	で	ほ	し	い	で		
あ	ら																				

「東日本大震災の体験談と復興への想い」麻葉用紙

## 匿名希望

東日本大震災当時、中学一年生だった私はが  
 ームセンターにいました。経験したことのない存  
 い大きな揺れに、あわてて外に出ました。す  
 子と目の前の店からは人がびんびんと飛び出  
 し、車は一斉に揺れ、晴れていた空は次第に  
 曇り、雪まで降ってきました。その時一緒に  
 いた人は「小が噴火するんじゃないか」と言  
 っていました。事態を理解できなかったのは帰っ  
 らずです。その道中、周りの家の瓦は落ち、地  
 面はひび割れ、ついでに床は商品で埋めつ  
 くさってしまいました。家に着くと食器は粉々に  
 割れ、物が床に散らばっていました。「日常  
 が数分のうちに「非日常」に変わり、「絶望  
 となりました。  
 今では復興も進み、震災前と変わらな  
 い生活ができています。しかし、未だに仮設住宅  
 の生活を余儀なくされたい子供がたくさん  
 います。近くを通ると物が痛みます。彼らに  
 家を手伝って欲しいという気持ち願っています。

## 「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

## 匿名希望

私は東日本大震災のとき、中学二年生でした。その日は卒業式で家族と食事に行く途中に地震がおこりました。ちやうど信号につかまっていて少しゆれているなと思っていたら急に大きくなって、ビルや柱が大きくゆれていたのを覚えています。

私はサッカーをしていたのですが原子力発電所が爆発してから、外での練習は減って雨が降ったので試合が中止になったこともあります。外で活動できなかったのはとてもつらかったのですが、いいこともありました。新しい仲間が増えたことです。私のチームに避難してきた人がら人も入って来ました。すごくうれしかったです。しかし、復興が進んで地元に戻ってしまいう人もいました。

私は、震災があつて悪いことばかりではありませんでした。たくさんの仲間とサッカーができました。ほやく復興が進んで、みんなが地元に戻って前の生活を取り戻せたらいいなと思っています。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 二瓶 葵 年齢 18 歳 職業・学校名 富岡高校

私は震災発生時に自宅で姉と一緒にテレビ  
 を見ていました。テレビで警報がなったとた  
 んに強い揺れにおそわれました。その日/日  
 停電、約1週間断水になりました。停電だっ  
 たためIHコンロが使えず隣の家の薪ストー  
 ブでお湯を沸かしてもらいインスタントラー  
 マンなどを食べました。水は、家に2Lのペ  
 ットボトルが3本位ありましたがそれだけで  
 はたりず給水所から水をもらいにいきました。  
 私の家の周りはお年寄りの方が多かったため  
 一人では水をもらいに行くことができない人  
 に消防団などの方々が水をくばっていたこと  
 は今でも憶えています。

私は現在、アレハブの校舎で検業を受けて  
 います。校庭もないため、グラウンドを借りて  
 サッカーのトレーニングをしています。

私はこのような経験をいだし、社会福祉士  
 の資格を取得後、地域の復興や心理的面でも  
 支えていきたいと思っています。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

## 匿名希望

私は、当時友達の家でオロオロをして逃げ回  
 りました。その時、急にゆれはじめそのゆれは  
 しばらくは大きくな。このころで私は怒をあけ  
 て外に出るよう友達に指示したあとひらいた  
 場所へ走。て皆で固まっ。ていました。そして  
 ら、目の前の地面やコンクリートがもりまが  
 った。て大きく波のようにな。ていました。地  
 面は割れ。て電柱がたおれ。ていたのをみて私は  
 我に返。て自分の家族が心配になりました。  
 その日は、卒業式で学校は午後から放課とし  
 たが妹は小学生だ。ため学校にとり残さな  
 っていました。その日は、たまたま：父と母は  
 仕事か休みだ。たので、家族は皆、家にいま  
 した。その日の夜は電気やトイレや水道が止  
 ま。ていた。のでロウソクに火をつけて昨日の  
 残り物で飯をたべました。余震が危ないの  
 で車でぬました。次の日の朝、私達が起きて  
 数分後に原子力発電所が水素爆発を起。しま  
 した。そして、私達は避難せざるをえなくな  
 りました。



「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 早尾太邦 年齢 18 歳 職業・学校名 富岡高校

私は2011年3月11日14時47分に起こった東日本大震災を体験しました。そのとき私は中学1年生で会津若松市のとある駄菓子屋にいました。その日中学校の卒業式があり、家に帰ってそのあとに遊んでいる状況でした。友達と遊んでいる最中にこの体験をしました。私と友達は外でサッカーをしていて、そのときに激しい強い揺れに見舞われました。駄菓子屋の中の棚に置いてあった商品は、ほとんど落ちました。幸いにも私達は、外に出てサッカーをしていたので怪我をしなくて済みました。全員が家のことが心配になり、すぐに電話をかけました。すると、家に撃がらなく、より心配になりました。私は、家に帰ると、冷蔵庫の中の物はこぼれ落ち、食器棚の食器も落下し、破損していました。テレビをつけると、ほとんどのチャンネルが津波の警報や余震の報道、原子力発電の爆発を報道していました。これが私が体験したことです。

「東日本大震災の体験談と復興への願い」応募用紙

## 匿名希望

私は家のリビングにいました。テレビを見  
 ていると急に画面に緊急地震速報が映りま  
 した。次の瞬間、大きい震れがきて外に出まし  
 した。電線や車がものすごく動いていたり、急  
 に周りが暗くなると雪が降り出したりして、  
 すごい恐怖感を持ちました。それに追いつき  
 さかけるかの様にライフラインが止まりま  
 した。生まれて初めて死を近くに感じる体験  
 でした。この体験から日頃の生活のありがた  
 さや次の災害があった時の準備の大切さを学  
 べることができました。

私は今、福島県立富岡高校で学んでいます。  
 福島北高校に場所を借り、プレハブの仮設校  
 舎で生活をしています。県内外4つのサテラ  
 イトに分かれているため、学校行事なども満  
 足にできていません。さらに、休校になって  
 しまうことが決まりとても悲しい思いでい  
 ぱいです。早く再開して、桜の美しい富岡町  
 に戻れるようにしていただきたいです。

## 「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 渡辺 大輝 年齢 18 歳 職業・学校名 福島県立富岡高等学校

東日本大震災が起きた時、私は家にいました。体験したことのない大きな揺れが起き、今まで普通の生活から一変していきましました。何不自由なく普通に生活していたことがどれだけ幸せなことなんだという二つを感じました。私は、富岡高校のサテライト校で学校生活を選んでいます。震災、原発事故の影響で全校生が離れそ生活しています。しかし、他の高校生が経験をしたような生活を送ることはできておりとても羨望していると感じています。

これから福島の復興に際、様々なことが必要になると思います。教育機関や交通機関や除染作業など早く進めなければならぬこと回復をせねばならぬことがあります。しかし、それ以外のことを確実に進めなくてはならないと思っています。被災者に対する大波の心のケアなどの精神的な部分も対応をしっかりと進めていかねばならぬと思います。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」麻葉田紙

## 匿名希望

2011年3月11日午後2時46分18秒に仙台市  
 の東方沖70kmの太平洋の海底を震源とする地  
 震がおきた。日本での観測史上最大のマグニ  
 チュード9.0の大地震だ。この震災の被害の太  
 きさは、テレビや新聞など身近なものですぐ  
 に知ることもできた。私の住んでいる実家は  
 被害が少なかつたが、福島県や宮城県などは  
 様々な被害があった。

私は震災を経験して、多くの人々の命や建  
 物、津波の恐ろしさ、そして福島県全体の  
 あたりまえの生活に於ける辛さを痛感した。

その後福島では復興のために様々な活動が  
 行われた。他県からたくさんの方の支援やボラン  
 ティアに来てくださった人達を見て、私も人  
 成困っていたら助けたい気持ちで以前よりさ  
 らにもっようになった。また、助け合うこと  
 の大切さなどあたりまえであることに感謝し  
 ながら過ごすことを学び直すきっかけにもな  
 った。震災は多くの命を失うものだが、人間  
 進化できる自然の試練であるがも  
 だ夫々進化できる自然からの試練しれない。

(20文字 × 20行)

## 「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 吉田 悠希 年齢 19 歳 職業・学校名 乐咲中学校

東	日	本	大	震	災	か	ら	身	が	た	ち	ま	し	た。	私	は
こ	の	時	を	生	き	ま	し	た。	と	て	そ	の	ま	ち	な	ゆ
が	と	っ	然	ら	ず	私	は	こ	の	ま	ち	を	ま	し	た。	
と	し	て	こ	わ	か	っ	た	と	す。	初	め	の	経	験	な	ら
た	の	ど	う	し	て	ま	い	の	か	あ	か	ら	な	く	て	た
お	机	の	下	に	も	ぐ	こ	い	ま	し	た。	先	生	の	指	示
を	外	に	出	ま	い	た	上	の	階	見	た	そ	の	は	上	級
生	が	持	っ	て	い	こ	下	級	生	も	も	と	並	ん	で	り
と	い	う	と	こ	ろ	を	見	ま	し	た。	地	震	は	だ	い	
に	も	と	め	の	こ	と	が	ど	き	か	い	の	で	自	分	の
身	を	守	る	に	は	ど	の	よ	う	に	行	動	す	ま	が	は
か	を	こ	え	か	ら	き	か	ら	と	守	ら	な	け	れ	ば	い
い	人	だ	ら	と	思	っ	ま	し	た。							
家	に	帰	っ	た	と	こ	に	見	た	の	は	着	が	棚	か	ら
ち	と	さ	か	ら	ん	し	て	い	たり	。食	器	棚	は	あ	か	ら
こ	た	っ	て	い	ま	し	た。									
こ	れ	か	ら	地	震	に	つ	い	て	多	く	の	こ	と	を	学
ま	し	い	行	動	を	取	ら	な	い	よ	う	な	人	間	に	な
り	と	思	っ	ま	す。											

(20文字×20行)

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 鈴木 穂乃香

年齢 14 歳

職業・学校名

矢吹中学校

私は小学五年生の時に東日本大震災を体験  
しました。帰りの会をしている時に地震が来  
て机などが大きくゆれました。その時はとて  
もこわが、たです。机の下に入、て泣きなが  
ら地震がおさまるのを待ちました。その時の  
場面を今でもおぼえています。今もひさい地  
では復興をしていますが、もっとがんば、て  
ほしいです。ボランティアに行、てあげたい  
なと私も思、ています。福島はみんなの手  
できれいにし、てあげたいと思、ています。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名

年齢 14 歳

職業・学校名 矢吹中学校

僕は目をつぶった。何が起きたのか全然わからなかつた。揺れがおさまり、外に避難して、少しずつ理解した。プールから溢れる水、柵は壊れ、他の皆も少しずつ何が起きたか理解した。しばらく待つと、祖父が迎えに来た。祖父の家を見ると、食器棚から多数の食器が落ち、その全てが無残に割れ、散乱していた。何か起きてからもすぐ、避難できる準備をしなさいと、祖父に言われた時、とても緊張したと同時に、怒かつた。父と母が帰って来た時、ようやく安心した。震災後しばらくは、福島はとても大変な状況だった。しかし一人一人が協力、皆が頑張った結果、少しずつ元の福島にもどりつつある。しかしまだ仮設住宅に住んでいる方々は大勢いる。そんな方々のために皆、自分なりに頑張っていると、僕は思う。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 井上陽 年齢 15 歳 職業・学校名 矢吹町立矢吹中学校

私は、東日本大震災を経験して思ったことがあります。

それは、今を生きているという二とほととも幸せだということです。私は、震災のとき小学校の体育館にいました。大きなゆれが当然私たちを襲いました。外に逃げると、ガラスの下にいた友達にガラスがおちてケがそしました。私はすごく同様してしまい、私もケがをしてしまいました。この恐怖は今でも覚えて

ています。家に帰ると私は変わり果てた家のまがたにびっくりしました。家のガラスはすべて割れ、水道が使えなくなりました。今まで平和だった生活が一瞬のうちになくなりました。た感じでした。

福島県が復興するためには、県民一人一人が復興してほしいと願う気持ちが大事だと思います。震災で被災された方々のためにも、今を生きているという二と幸せという二とをあるてとを感じて一日一日を大切に生きてきたいひす。



「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 柳沼 千咲 年齢 14 歳 職業・学校名 天吹中学校

私	が	小	学	四	年	生	の	時	に	東	日	本	大	震	災	が	起	こ	り	
ま	し	た	。	私	は	初	め	て	震	災	が	と	て	も	怖	い	と	い	う	
こ	と	を	知	り	ま	し	た	。	避	難	訓	練	で	練	習	し	て	い	る	
の	と	は	全	然	違	い	。	突	然	だ	ら	た	の	で	ビ	ッ	ワ	リ	レ	
た	の	と	大	き	な	揺	れ	で	自	分	の	思	い	通	り	に	動	け	な	
く	て	揺	れ	が	結	構	長	か	。	た	で	す	。	家	に	帰	る	と		
家	の	中	が	ワ	ン	ワ	ン	で	四	も	何	枚	も	割	れ	て	い	る		
た	り	壁	に	ぶ	つ	か	つ	。	こ	い	て	。	す	ご	く	ビ	ッ	ワ	リ	
し	ま	し	た	。	ト	イ	レ	ヤ	水	道	も	あ	ま	り	使	え	な	い		
コ	ニ	ビ	ニ	ト	行	く	。	何	も	無	い	。	な	。	て	い	ま	し	た	。
テ	レ	ビ	ニ	キ	ツ	ケ	ル	。	ニ	ュ	ニ	ス	ダ	ラ	ハ	ダ	。	た	り	。
車	の	中	で	寝	た	り	し	て	い	ま	し	た	。	毎	日	が	す	ご	く	
怖	い	。	少	し	の	揺	れ	で	目	が	覚	め	た	り	し	て	い	る	。	
ま	し	た	。	で	も	。	そ	の	苦	し	さ	を	乗	り	越	え	て	今	が	
あ	る	の	で	こ	の	心	分	ら	も	頑	張	り	た	。	と	思	い	ま	す	。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 伏藤 淳也

年齢 15 歳

職業・学校名

矢吹中学校

僕は大地震を経験して当たり前前に毎日が過  
 ぎることがとても貴重なことだと感じました。  
 大震が起きた時、僕は教室にいました。突然  
 起きた大きさが揺れでロッカーの荷物や棚の上  
 の書類などが床に落ち、僕は立ちすくんでい  
 ました。校庭に避難した後家に帰る時、川を  
 通って川を通学路は変わり果ててしました。  
 川の水、土壁や崩れたブロック塀など大き  
 く破壊され、僕は信じられなような光景を  
 見て絶望感でいっぱいになりました。家にた  
 どり着いてみると、断水してて、飲みたい  
 水が飲めませんでした。今思うと、テレビは  
 映らなかつたが、どうも地震のニュースばかりでし  
 た。給水場に行き、なんとか水は確保できた  
 が、ガソリンや生活必需品の入手が困難で、  
 日常感は無くなってしまいました。大震災が起  
 きたから五年にかります。多くの方々の支援  
 のおかげでこゝまで復興することになりました。  
 一日一日を大事に思い、感謝の心を大切  
 にして過ごしていかないと感じました。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 広瀬 大志 年齢 15 歳 職業・学校名 矢吹町立矢吹中学校

今から5年前、東日本全域を襲ったマグニチュード9.0の巨大地震は、私達の住んでいるこの福島にも大きな爪痕を残している。た。沿岸部は津波によつて壊滅的な被害をうけ、内陸部は家屋の倒壊や土砂崩れによる被害により数多くの命が失われた。そしてこの5年たつた今でも震災による被害に苦しめられ続けている人々がいる。放射能の影響で避難をよぎなくさず県外へ引越した人々、風評被害をうけた人々、最愛の人を失くした人々、たからこそ私達は、このことを全体におぼすことは出来ない。この出来事を後世に伝えたいか、おぼすことが出来ない。この体験をこの悲しみをすくすく背おびて生きていかねばならぬ。この悲しき記憶を全体に絶やしてはならない。だから私はこの記憶を一人でも多くの人々に伝えていこうと思う。この土命をおぼすおぼすに1日1日を大切に生きていこう。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 渡部 佳奈

年齢 15 歳

職業

学校名 矢吹中学校

震災の体験、初めての大きな揺れ。大きな  
 揺れは広い範囲に広がり被害をもたらした。  
 東日本大震災時は小学4年生でした。帰りの  
 学活の時大きな揺れが発生し、座わっている  
 のも立っているのも混乱で先生に指示され机  
 の下にもぐりました。その後もずっと揺れが  
 おさまらなく泣きだしてしまい、それでもめ  
 げずにかくれていました。命のは絶対守る！  
 って心で思っていました。避難後。先生にも  
 言われました。「自分の命は自分で守る」っ  
 て言われ、その言葉は今でも忘れられません。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 三村 侖輝 年齢 15 歳 職業・学校名 知吹中学校

東	日	本	大	震	災	は	私	が	小	学	四	年	生	の	時	に	起	こ			
っ	た	。	卒	業	式	の	練	習	中	だ	っ	た	。	ハ	キ	ナ	リ	「	ド		
ン	」	と	い	う	音	が	聞	こ	い	て	ジ	ェ	リ	ト	コ	ー	ス	タ	ー		
の	よ	う	に	揺	れ	た	。	初	め	て	地	震	の	怖	さ	を	実	感	し	た	。
マ	ニ	ホ	ー	ル	は	盛	り	上	が	り	、	道	路	は	割	れ	て	ア	ド		
ク	ワ	の	壁	な	ど	が	壊	れ	て	い	た	。	テ	レ	ビ	な	ど	は	う		
づ	ら	な	く	な	っ	て	い	た	。	学	校	は	1	ヶ	月	程	度	休	み		
に	な	っ	た	。	け	っ	こ	う	う	れ	し	か	っ	た	。	し	か	し			
原	子	力	発	電	所	な	ど	に	問	題	が	起	こ	っ	て	い	る	と	う		
ジ	オ	な	ど	ど	や	っ	て	い	た	。	放	射	線	を	浴	び	る	と	が		
こ	に	な	り	や	す	く	な	る	と	き	い	て	と	と	も	怖	が	っ	た	。	
し	か	し	、	福	島	県	の	人	た	ち	は	救	け	合	っ	て	復	興	す		
る	こ	と	が	あ	っ	た	。	私	は	感	動	し	た	。	な	の	ど	私	は		
こ	れ	か	ら	も	戦	っ	て	い	こ	う	こ	と	と	な	る	放	射	能	や		
風	評	被	害	な	ど	に	負	け	な	い	よ	う	に	元	気	よ	く	生	き		
て	い	こ	う	と	思	う	。														

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 小林 仁栄 年齢 19 歳 職業・学校名 矢吹町立矢吹中学校

私が東日本大震災を経験したのは、小学校4年生の時です。あの時私は、丁度家に帰る途中でした。襲いかかるときには木にうかまひましたが、その木も折れ去ったので、道路のコンクリートが散々な状態じ、地球が滅びてしまふのじはなつかいと考えたくらいのひどさでした。その後私は無事両親に迎えに来てもらいました。テレビでは津波の様子が何回、何十回、何百回、何千回、何万回と流れ続け被害はますますひどいものじでした。それからあのような出来事を経験して5年が経とうとしをいたします。福島県じは原発事故なごじ風評被害などの影響をうけていますが変わり、新しい事もおこります。これは人の温かさです。復興とは見た目だけじやなく被災者の心の中の不安を取り除く事じだと思います。私は、これからの日本の未来と福島復興の為に尽くしていきにいます。

「東日本大震災の体験談と復興への思い」応募用紙

## 匿名希望

私は2011年3月11日の東日本大震災での  
の出来事についてはあまり覚えていません。  
ただ、どうしても大きな波が、とても大きなこ  
とになったのは覚えています。海に近い地域  
の方では津波がおこり、何ろ人という人が悲  
しい思いをしました。でも、今はこんなことで  
がある、でも復興してきています。たしかに  
今もまだ、自分の生まれ育ち、を町、村に帰来  
たい人もまだまだいます。けれど、そんな  
中、震災をのりこえて生きていける人もいま  
す。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 伊藤 颯哉 年齢 15 歳 職業・学校名 矢吹西女矢吹中学校

東日本大震災で感じたこと

伊藤 颯哉

私はいま、中学三年生です。

あの日から約五年という月日が流れます。

今は、県、市、町、村などさまざまな地域が

復興が進んでいます。五年たっていては、完

全ではなく、あの日の跡が残っている所は、

多々あります。

あの日とは、私たちが体験した東日本大震

災です。普通に生活していた、何気ない日か

急に暗くなり、私たちの中で、一生消えない、

忘れない日になりました。私たちの県、福島

県は、原発に悩まされ大変な日ばかりでした。

幼かった自分は、遊びたい気持ちがあり、

友達にも会えない日が続き、怖く落ちつかぬ

い生活を送っていました。この時の記憶は、

細かく残っています。復興に向け私たちは一

ついつい成長し続けています。まだ心に傷があ

る人も多いと思うが、今は、この日を振り返

り、元気に過ごしていきたいと思えます。



## 「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 大竹 俊太 年齢 15歳 職業・学校名 知徳中学校

震	災	が	起	き	た	の	は	。	僕	が	小	学	年	生	の	と	き				
で	し	た	。	僕	の	家	は	少	し	古	い	の	で	。	崩	れ	て	な	い		
か	と	て	も	心	配	で	し	た	。	泣	い	て	い	る	人	も	い	た	け		
に	。	僕	は	お	け	が	お	か	ら	な	か	っ	た	で	す	。	家	に	帰	る	
と	。	家	の	前	の	へ	い	が	壊	れ	て	い	ま	し	た	。	石	造	り		
だ	っ	た	の	で	。	直	す	の	が	大	変	だ	っ	た	そ	う	で	す	。		
電	気	は	大	変	だ	っ	た	の	で	周	り	で	大	変	え	ら	に	し			
て	い	る	大	人	達	を	見	な	が	ら	。	T	V	が	ー	ム	を	し	て		
ま	し	た	。	僕	は	。	完	全	ク	リ	ア	を	目	指	し	て	い	た	の		
で	毎	日	何	時	間	も	カ	リ	ま	し	た	。	学	校	が	休	校	に	な		
る	た	の	食	に	は	う	ご	こ	が	よ	か	っ	た	と	感	じ	て	い	た		
と	思	い	ま	す	。	で	す	が	。	風	呂	に	入	る	た	め	に	。	と		
な	り	野	の	い	と	こ	の	家	ま	で	人	が	な	り	丸	め	ら	る	な		
い	た	め	。	大	変	で	し	た	。	亦	た	。	毎	日	三	時	間	ほ	ど		
問	題	集	を	や	ら	さ	さ	て	り	た	た	め	い	そ	が	し	か	っ	た		
で	す	。	で	す	が	。	毎	日	い	と	こ	と	会	え	た	の	か	と	て		
も	嬉	し	が	っ	た	で	す	。	今	も	。	二	人	か	ら	も	復	興	す		
る	の	は	大	変	だ	っ	た	と	思	う	け	ど	。	僕	は	。	協	力	し	て	い
け	た	ら	い	い	な	と	思	っ	て	い	ま	す	。								

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 小澤 陸 年齢 15歳 職業・学校名 知吹町立 知吹中学校

私は、東日本大震災を経験しました。まじ  
 があんな大きい地震がくるとは思っていませ  
 人でした。私は、家族や親戚が津波などで亡  
 くなるということはなが、たのよかったと  
 思いません。しかし、私の祖父は、病気をいっ  
 ぱいがかえっていて体が弱っている時に地震が  
 起き、ショックなどで体がさらに弱ってしま  
 い、病気がひどくなり、多臓器不全で東日本  
 大震災の一週間後にお亡くなりになられました  
 た。東日本大震災の地震で、津波や火災が起  
 きて、たくさんの方がお亡くなりになられて  
 すごく残念だと思いました。これからは、小  
 学校や中学校でしっかりとした訓練をしてい  
 かなければならないということが東日本大震  
 災を経験して思いました。自分の命を大切に  
 するため守るために必要だと思いました。こ  
 れから復興・復旧に向けた作業もしていかな  
 ければならないと思いました。